

平成23年行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	産業医学助成費補助金		担当部局庁	労働基準局安全衛生部		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	昭和53年度		担当課室	計画課		高崎 真一	
会計区分	労働保険特別会計 労災勘定		施策名	安全・安心な職場づくりを推進すること			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	労働者災害補償保険法第29条第1項第3号		関係する計画、通知等	第11次労働災害防止計画			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	産業医科大学に対する助成、修学資金の貸与を行うとともに、産業医の資質の向上、産業医学に関する研究の促進等を図り、もって産業医学の振興及び職場における労働者の健康確保の充実に資することを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> 一 産業医科大学の運営に対する助成及び産業医科大学の学生に対する修学資金貸与事業 二 産業医の資質の向上を図る研修事業 						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	6,058	6,082	5,317	5,453	5,023
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	6,058	6,082	5,317	5,453	
	執行額	6,017	5,928	5,182			
執行率(%)	99.32%	97.46%	97.46%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	【22年度目標】 ①実践能力の高い産業医を養成する体制を維持するとともに、産業医数を毎年20名以上純増させる。 ②認定産業医の資格を取得しようとしている他の医科大学、医学部卒業者に対して行う日本医師会認定産業医基礎研修のうち、当該講座が有効であった旨の回答の割合を85%以上にする。		成果実績	①産業医数:22名増加 ②有用との回答:91.0%	①産業医数:26名増加 ②有用との回答:93.0%	①産業医数:46名増加 ②有用との回答:88.9%	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	【22年度目標】 ③医師国家試験の合格率については、常に全国医学部・医科大学80校中上位20位以内の合格率を維持する。 ④産業医の資格取得希望者のための研修の参加者を550人以上とする。 ⑤企業人事・労務担当者向けメンタルヘルス対策支援講座、一般者向け公開講座や産業医活動に関心を持つ方に対してオープンキャンパスを実施し、これらの講座等の参加者を780人以上とする。		活動実績 (当初見込み)	③合格率順位:30位 ④研修参加者:597名 ⑤参加者:776名	③合格率順位:20位 ④研修参加者:596名 ⑤参加者:792名	③合格率順位:12位 ④研修参加者:590名 ⑤参加者:825名	— (③合格順位20位以内 ④研修参加者:550人以上 ⑤参加者780人以上)
単位当たりコスト	(円/)		算出根拠				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	産業医学振興財団運営費	2,171	2,051	定員削減計画、事業内容の見直しによる人件費の減、事業の見直しによる管理運営費の減。			
	産業医科大学運営費	3,282	2,972				
計	5,453	5,023					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	×	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	B(学校法人産業医科大学)への補助については、私立大学審議会の審査において、経常的経費については国から直接補助しない方法を検討すること等の条件が示されたため、A(産業医学振興財団)を通じて補助を実施しているところである。ただし、今後私学に対する国からの直接補助が認められた場合は速やかに国からの直接交付へ変更する。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・業務運営の更なる効率化を進める。支出先の選定、競争先の確保については、特記事項のとおり対応する。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>産業医学助成費補助金については、事業の各項目の費用対効果の検証の上、予算を縮減すること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>点検結果を踏まえ業務の更なる効率化を実施。(反映額: ▲430百万円)</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p></p>			

※平成22年度実績を記入

産業医学助成費補助金

厚生労働省
(5,162百万円(平成22年度精算予定額))

事業管理

【補助】

A. 産業医学振興財団
(5,162百万円(平成22年度精算予定額))

産業医学の振興及び職場における労働者の健康管理の充実、産業医科大学に対する助成、産業医の資質の向

【補助】

B. 学校法人 産業医科大学
(3,359百万円(平成22年度精算予定額))

産業医学の振興と優れた産業医及び産業保健技術者の養成

【委託】

C. 都道府県医師会(46)及び日本
歯科医師会(123百万円(平成22年
度生産額))

産業医の養成及びその資質向上を図るため、都道府県医師会及び日本歯科医師会に委託し、産業医研修会の実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.(財)産業医学振興財団			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
産業医科大学運営費	産業医科大学の運営に対する助成	3,359			
産業医科大学修学資金	産業医科大学学生への修学資金貸与	1,444			
人件費	職員給与	134			
産業医研修経費	都道府県医師会及び日本歯科医師会産業医研修委託事業	123			
管理諸費	諸謝金、旅費、庁費、借料、諸税等	73			
その他事業費	産業医学情報室等経費、修学資金管理経費、全国産業医代表者協議会開催経費等	29			
計		5,162	計		0
B.学校法人 産業医科大学			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	教職員	3,610			
教育研究費	教育研究に係る庁費、電算借料、研究費等	1,558			
管理経費	諸謝金、旅費、庁費、借料、諸税等	864			
事業収入	額納金、手数料等	-2,673			
計		3,359	計		0
C.愛知県医師会			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
謝金	研修会講師謝金	4			
その他の経費	会場借料、事業場実習謝金、マイクロバス借料	2			
計		6	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学校法人産業医科大学	産業医学の振興と優れた産業医及び産業保健技術者の養成	3,359	随意契約	
2	愛知県医師会	産業医研修会の実施	6	随意契約	
3	福岡県医師会	産業医研修会の実施	5	随意契約	
4	京都府医師会	産業医研修会の実施	5	随意契約	
5	香川県医師会	産業医研修会の実施	5	随意契約	
6	大阪府医師会	産業医研修会の実施	5	随意契約	
7	北海道医師会	産業医研修会の実施	4	随意契約	
8	山梨県医師会	産業医研修会の実施	4	随意契約	
9	日本歯科医師会	産業医研修会の実施	4	随意契約	
10	岡山県医師会	産業医研修会の実施	4	随意契約	